

編集・発行責任者；木下耕一 〒157-0066 東京都世田谷区成城 8-24-1 - A-201
Fax&Tel 03 - 3482 - 5257 / E-Mail ; kino-coh1@amy.hi-ho.ne.jp

たましろフェスタ開催

もちつき交流会と同様お客さんが増えてきた頃にちようど雨が降りだすという生憎の天気でしたが、なかなか楽しい一日でした。

前回同様、今回もかたつむりの舞台裏をご紹介します。私は例によってバザーのお手伝い。朝九時に品川区立中延小学校に集合。バイクで約三十五分でした。

バザー用品を運んでくるのは職員の高城さん。前日かたつむりのワゴン車に荷物を乗つけて帰り、今朝は目黒の自宅から直行でいらしたそうです。バザーは、搬入の足をどう確保するかが第一ポイントですよ。

今回は、たましろの郷後援会、全通研東京支部、世田谷区聴覚障害者協会とかたつむりの四店が出店、小学校の校庭に仲良く机を並

べて設営。最初は、ほとんどスタッフ同士で「買いあつてる」状態で、お客さんくるんかいな？と大変心配しました。

ようやくぼつぼつと客足が延びてきた頃お天気の方もポツリポツリ。慌ててお隣の荏原文化センターの要員控え室へ店を移動。

開店早々の引越は大変でしたが、式典・アトラクションが行われたホールと同じ建物内で販売ができ、室内で寒さも防げた上に夕方まで売れる事ができて（小学校は午前中だけだった）結果的にはこれがとてもラッキーでした。

お客さんの入りもまあまああだつたのではないでしょう。かたつむりのバザーもケーキは完売。鉄道研究所から寄付された非常用の

お米と缶詰も意外な売れ行きでした。（販売した人がよっぽど強引だった？）

私はずっと店に詰めていたのでホールでの経過報告やアトラクションはほとんど見てないのですが、たましろの郷を支援しよう集まった方々がホールを埋め尽くす様子を見て「東京もまだまだ捨てたもんじゃない」と心強く思いました。

今回は城南地区聴覚障害者団体連合会主管ということでしたが、パンフレットに「手話サークル」というクレジットが全く無く少々寂しく感じました。個人だけでなく団体として各区のサークルがフェスタの実行委員会に参加できた良かったのに。ろうあ団体とサークルが一致団結して、かたつむり・たましろを応援したいものです。

新聞スクラップ

02/11/10:11 共同通信

全救急隊員に手話習得を

福岡市消防局が取り組み

福岡市消防局は、全救急隊員百六十八人の手話習得を目指す取り組みを四月に本格スタートさせる。聴覚障害者への救急出動にスムーズに対応するため、同市聴覚障害者福祉協会などの協力を得て防災用語の手話マニュアル集とビデオを教材用に作った。

昨年、福岡市内の救急出動四万千百六十四件のうち、聴覚障害者を含む身体障害者に対する出動は二百二十八件だった。

聴覚障害者は一九九番の代わりに市消防局の専用ファクスに救急連絡。現場に駆け付ける救急隊員と主に筆談でやりとりするケースが多い。だが、うまく意思疎通できず適切な処置に手間取ることもあり、隊員から手話習得の必要性が指摘されていた。

手話の教材は「吐き気はありますか」「血圧を測ります」など救急医療の実情に即した内容。三月から福岡市消防協会が販売もする予定だ。

市消防局救急救助課の安達健治主任は、既に一部で勉強会をやっている。救急現場での確かな対応が素早くできるよければ、と成果に期待している。